■令和 8 年 8 月 26 日定例記者会見内容

１日時　令和 8 年 8 月 26 日（水）11：00～11：30

２場所　市役所本庁舎 3 階第三委員会室

３出席者　　〇市長、副市長、総務部長、企画部長、危機管理監、市民部長、総務課長

〇酒田記者クラブ／各社

幹事社／朝日新聞・ＹＴＳ

■市長発表事項

なし

■代表質問

１．酒田市中心部へのクマ出没への対策強化について

記者／酒田市中心部のクマ出没について対策強化の考えがあれば教えてください。

市長／本市では今もクマ出没対応対策本部を立ち上げており、部署を横断的にクマに対応するための体制をとっています。また警察や鳥獣被害対策実施隊、猟友会の皆さんと密接に連携してクマ対応に当たっているところです。具体的には、クマ目撃の通報が寄せられた場合、第一にまず現地確認を行い、警察、鳥獣被害対策実施隊が協力して痕跡の確認と探索を行っています。第二として捕獲行動をとることになります。クマが現地にとどまっている場合には、警察、鳥獣被害対策実施隊が早急に体制を整えて捕獲に向かいます。現地にクマがとどまっていない場合には、再出没が懸念される場所に罠を仕掛けてほぼ毎日見回りをし、適宜その位置を変えるなどして捕獲に取り組んでいます。第三に、出没場所が人家などに近い場合には､捕獲行動と同時に速やかに市民への注意喚起を行っています。市民への注意喚起方法は、まず一つ目として市が災害対応用のアプリを通じて学校やコミセンなど目撃情報の近隣にある関係機関と情報共有し、地域住民などへの注意喚起をお願いしています。二つ目の方法といたしまして、防災行政無線、Facebook、X、メール、さかたコンポ登録者に LINE などで広く市民に対して注意喚起を行っています。三つ目の方法としまして、警察がパトロールを行う他、市も出没時間や場所などの状況に応じて街宣車で注意喚起を放送しながらパトロールを行っているところです。

次に市の中心部での出没の場合ですけれども、まず最初の現地確認、こちらは同じです。二つ目の捕獲行動について、クマが現地にとどまっている場合は同じですが、現地にクマがとどまっていない場合、市の中心部の場合は罠を仕掛けるということは非常に難しいという課題があります。なぜなら再出没が懸念される場所の特定が難しいためです。また三つ目の市民への注意喚起についても、農村部、市の中心部で違いもありまして、市の中心部にクマが出た場合は防災行政無線が農村部より少ないという問題があります。また市の中心部の場合は、観光客など地域外から多くの方が来ていますので、さかたコンポに登録していない方にどのように周知をしていくかということで、三つ目の手段である警察による現地のパトロール、それから市による街宣車での現地パトロールが重要になってくると

考えています。
このように農村部での出没と異なり、市の中心部でクマが出た場合の注意喚起には課題もございますので、外から来た方を含めて、注意喚起をどのように効果的に行えるのかを改めて対策本部でも検討していきたいと考えています。
またこれまでの市の対策は、今申しましたように現地確認、捕獲行動、注意喚起、この三つが中心でしたが、今後は特に市の中心部で出没した場合、クマに遭遇した場合の対処方法を市民に周知するということも非常に重要になってくると思います。これまでも出前講座や市の広報、ホームページなどによりクマに遭遇した場合の対処方法を市民に周知してきたつもりではありますが、他にも環境省で作成した動画など既存の良い資料もありますので、活用方法を考えたいと思います。またクマスプレーの正しい使い方の周知も重要ですので、対処方法を市民の皆さんにお知らせし自衛の手段を取れるよう、どうしたらいいのか引き続き対策本部で改めて検討していきたいと思っています。
記者／今後対策を検討のことですが、いつくらいまでにという目処があるのかと、鳥獣害専門部署設置の想定があるのかをお願いします。
市長／クマ、イノシシも含めた対策が令和９年度予算編成の大きな柱になると思っていますが、市民の皆さんに自衛手段を身につけていただくことの周知はどのように強化できるかを今検討しています。予算を伴うものは少し時間がかかりますので、まず予算をかけずにできることは早く打ち出していきたいと思っています。
専門部署の設置につきましても、令和９年度に向けて必要性を検討するということです。令和８年度予算編成でも検討しましたが、今年度は特別な部署は設けませんでした。なぜなら、クマ対策は全ての部署にまたがるからです。捕獲は環境衛生課あるいは農林水産部が中心になりますが、観光客への周知は地域創生部で考えますし、学校は教育委員会、保育園などは健康福祉部、公園の安全管理は建設部なので、特別な部署ではなく本部会議でという判断を令和８年度はしたところです。しかし、街中でクマの出没が頻発している現状を踏まえて、どのようにしていくかを令和９年度に向けて検討していきたいと考えています。
記者／市民に対策を周知する取り組みについて、具体的な方法をわかる範囲で教えてください。
市長／もし街中でクマに出くわしたらどうするか、子どもたちに教えていかなければいけない。それをどのようにしたら現実的にできるのかを庁内で検討していくということになります。
記者／目撃情報を集約するのは環境衛生課、さかたコンポに発信するのは危機管理課という形になるとのことですが、土日の対応は職員の当直体制ではありません。そうすると、勤務時間が終わると職員が帰ってしまうこともあるので、専門部署を設けないことで職員の意識が低くなってしまうことを危惧しています。
市長／土日の対応についても、目撃情報の集約は環境衛生課、さかたコンポなどでの市民への周知は危機管理課ということで変わりはないわけですが、各課で当番制のような形で

対応しているのが現状です。危機管理課と環境衛生課だけでは大変ではないかと私も思いますので、令和9年度に向けて専門部署を設けるのも一案でしょう。どういった対応で向かうべきか検討していきたいと考えています。
酒田警察署と猟友会との連携はしっかりとれていると思っていますし、第一報は環境衛生課、市民周知は危機管理課、これもしっかり内部では連携できていると思っていますが、それが市民の皆さんに伝わってないのなら、もう少しわかりやすく伝えていく必要があります。特に今はクマが街中に出始め、農村部とは違う課題もはっきりありますので、それを含めた対応もしっかり検討した上で、市民の皆さんにどう対応しているかを伝えていくことが大事だと考えていますし、各地の事例をご存じでしたら教えていただければ参考にしたいと思います。これから専門家の意見も聞く予定です。

■フリー質問

１．まちなかエリアプラットフォーム設立総会について

記者／中町エリア再生、旧清水家の暫定利用というまちなかグランドデザインが出された時点では、まちなかエリアプラットフォームはもう少し早い時期の立ち上げ予定でした。今年は酒田大火50年も絡んでくると思います。酒田大火発生当時の復興計画は2年位で作ったわけですが評価が分かれており、計画が早くできたことは良かったというのと、性急すぎて現在の状況になったというものがあります。設立総会に先立ちお考えがあれば教えてください。

市長／まちなかエリアプラットフォームにつきましては、当初から8月頃の立ち上げ予定でしたので、予定通りというふうに思っています。酒田市大火の復興計画に二つの評価があることは私も存じています。ただ今回は酒田市大火のような災害からの復旧復興ではないので、しっかり市民の意見を聞きながら少しずつやっていくことが大事だと個人的には考えています。

２．さみだれ大堰の破損について

記者／最上川のさみだれ大堰の破損について、市長が把握されていることやお考えがあれば教えてください。

市長／当初から管理者である酒田河川国道事務所長より状況報告をいただいていますし、農林水産部でも現地確認はもちろんのこと土地改良区と話し合いをしています。所長から直接お聞きしましたけれども、まず排水ポンプ車を設置して対応する、それから県管理の二級河川からの振替出水を緊急的な対応として通常の量よりも多く取水する、この二つで水を確保しているということです。関係者の連携は取れていると思っていますので、何とか乗り切っていけるのではないかと考えています。

３．陸羽西線と山形新幹線庄内延伸に対する動きについて

記者／先日ＪＲが陸羽西線の一部バス代行の方向性を示し、山形県が要望書を提出しまし

た。また昨年来取り組んでいる山形新幹線の庄内延伸について、今年の秋に講演会を予定していると仰っていました。市長としてこの状況や新幹線延伸をどう進めていくお考えかお聞きしたいと思います。

市長／まず、県が中心となって要望書をまとめて提出していただいたことは大変ありがたいと感謝しています。対面での要望活動の時期は現在調整中ですが、私自身も一緒に行ってしっかり地域の声を届けていきたいと考えています。

山形新幹線の庄内延伸は、車の両輪のような形で進めていければいいと思っています。陸羽西線を存続するためにも新幹線延伸を進めていければ嬉しいですし、新幹線を誘致するためにも利用促進がとても大事だと思いますので、両方の機運が盛り上がるよう県としっかり情報共有しながら、どういう行動をとるべきか進めていきたいと考えています。

講演会については現在調整中です。もうすぐ発表できると思いますが、年内に講演会ができればと考えています。

■その他

なし

以　上